2017年9月4日

ORCID国内学術機関コンソーシアム設立に向けて（たたき台）

○趣旨

・現在、日本では6万人以上の研究者がORCIDを取得している。しかしながら、機関メンバーとなっているのは、5つの大学や研究機関（東工大、筑波大、慶応、NIMS、NII）に過ぎず、国内のID取得者は機関からのサポートを全く受けられないままに、ORCIDを使わざるを得ない状況にある。

・海外では、多くの大学や研究所などが機関メンバーとなっており、構成員をサポートする体制が整備されている。さらに、国や地域のレベルで18のコンソーシアムが結成されている（オーストラリア、ベルギー、カナダ、デンマーク、フィンランド、ドイツ、イタリア、ニュージーランド、南アフリカ、スウェーデン、台湾、英国、米国など）。

・こうした状況の下、昨年7月に設立されたオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）は、国内の大学でのORCIDの普及をめざし、研究者情報連携タスクフォースを中心に、ORCIDコンソーシアムの設立に向けた検討を開始している。

・一方、国内学協会もORCID学協会コンソーシアム検討会を継続的に開催し、コンソーシアムの結成をめざした議論を積み重ねており、科研費の申請も計画している。

・このような動向に鑑み、懇談会を設置し、わが国におけるORCIDの普及と利活用促進をめざして、コンソーシアムの設立に向けた検討を加速したい。

○進め方

　・現在のORCID機関メンバーに加えて、JPCOAR研究者情報連携TFメンバーやORCIDへの参加を検討している機関の関係者も含めて懇談会を開催する。

　・懇談会にて発起人を募り、コンソーシアム設立発起人会を立ち上げる。

　・設立発起人会を中心として、設立趣意書、諸規則、事業計画などの原案を作成する。

　・設立当初の会員機関が集まり、設立総会を開催し、諸規則や事業計画等について決議し、コンソーシアム設立。

○事務

・懇談会及び設立発起人会の事務は、国立情報学研究所が担当する。

○その他

　・学協会コンソーシアムの動向を見て、連携・協力のあり方について検討する。